

マクロスフェライド類および関連化合物合成への新しいアプローチ
 New Approaches for the Synthesis of Macrosphelides and Relating Compounds

○松谷 裕二¹, 根本 英雄¹(¹富山医薬大薬)

マクロスフェライド類は、近年単離、構造決定された 16 員環マクロライド化合物であり、細胞接着阻害活性等の生理活性を有することが報告されている。我々は、これらの天然物をリードとした創薬研究の一環として、単純 16 員環骨格（マクロスフェライドコア）の短行程合成を検討し報告した。本合成法は、両エナンチオマーが入手容易な市販のキラル素子を原料としており、各種立体異性体を柔軟に合成できるという利点を有する。また、官能基共存性に優れた閉環メタセシス（RCM）をマクロ環構築の鍵行程として利用したマクロスフェライド類の新規合成法の開発研究も行い、いくつかの天然マクロスフェライド類合成に成功した。本法は、多様な置換基、官能基を持つ各種誘導体合成に応用可能であると考えている。これら合成研究の詳細について、本シンポジウムにて報告する予定である。

